土岐地区まちづくり広報

第65号
令和５年１月

ときめき

謹んで新春のお慶びを申しあげます

土岐地区町民の皆様には、まだまだコロナウイルスを心配しながら新年をお迎えの日々かと推察いたします。

私どもまちづくり推進協議会の活動においても、コロナ禍の中で気がつけば四年目を迎えることとなりました。旧年においては、残念なことに予定していた二事業の内容を変更せざるを得なくなりました。しかしながら、どのような形であれ、少しでも土岐地区に住んで良かったと感じていただけるように活動を進めてまいりたいと存じます。

本年も、私どもまちづくり推進協議会に対して、変わらぬご支援・ご協力をお願い申しあげます。

令和五年元旦
土岐地区まちづくり推進協議会
会長　土屋泰次郎

【特集】そろそろかな？　まだまだかな？

【こらむ】
・観客入れて土岐小運動会
・お祭りのお神輿が再開
・盛況のＪＲさわやかウオーキング
・中学生と語る会が開催されました
・五校合同の資源回収が行われました
・花苗が配られました
・土岐橋が生まれ変わります
【探訪と再発見】　トキは、桔梗（ｷｷｮｳ）に由来する

そろそろかな？　まだまだかな？

新型コロナウイルス禍も３年が過ぎ、三密回避・マスク着用・対人距離・少人数飲食・ワクチン接種等々の対応が行き渡って来たことで、ゆっくりですが、かつての賑わいが戻ってきています。でも、気を緩めると大波に呑み込まれます。新たな変異株も見つかっており、まだまだ油断は禁物です。

観客入れて土岐小運動会

１０月１５日（土）、土岐小学校では、人数制限や声出し応援禁止などの規制下で、３年ぶりに観客を入れての運動会が行われ、運動場が熱気に包まれました。

コミュニティ・スクールの始動もあり、地域の方々と子どもたちで運動場の草取りをして迎えた運動会の開催でした。

地域住民と児童による草取り作業

観客席からの熱い視線が児童を包む

お祭りのお神輿が再開

３年ぶりに、一日市場八幡神社のお神輿が“かつぎ会”によって復活しました。同じ日、市原白山神社でも子ども神輿が復活して、町内を練り歩きました。鳴り物はあっても、声出しは控える形での実施でした。

１０月９日（日）一日市場八幡神社

１０月９日（日）市原白山神社

盛況のＪＲさわやかウオーキング

秋晴れの１１月６日（日）、ＪＲ主催のさわやかウォーキングが開催され、多くの参加者を迎えました。瑞浪駅→一日市場八幡神社→下街道→きなぁた瑞浪→櫻堂薬師→ちゃわんや瑞浪→益見の二つの酒蔵のお酒の試飲→瑞浪駅のコース。駅の受付通過人数で１，５００人を超える参加者で賑わいました。

まちづくり推進協議会も、薬師でおもてなしと地域紹介の活動を行いました。

櫻堂薬師周辺の様子

若葉蔵元 若葉㈱地酒の試飲の様子

小左衛門蔵元 中島醸造㈱の試飲の様子

中学生と語る会が開催されました

１１月２６日（土）、明世・釜戸・日吉・大湫・土岐のまちづくり推進協議会が共同で、「中学生と語る会」を開催しました。今年度は日吉地区が主催で、北野の天神窯で行われました。中学生２８名（土岐地区は８名）、まちづくり役員２０名の参加がありました。

日吉町の小栗昭治さんの講演「わがまちの自然」を聞いた後、ローテーショングループごとに、天狗塚の散策・窯焼きの薪入れ・ピザ窯でのピザ焼きを楽しみました。

活動を通して中学生が大人と語り合うことにより、座談中心の会議に比べ自然な会話が生まれやすく、楽しい会となりました。

小栗さんの講演「わがまちの自然」

天狗塚から見る絶景

窯焼きの薪入れ体験

ピザ窯でのピザ焼き体験

五校合同の資源回収が行われました

１１月２７日（日）、土岐小・明世小・日吉小・釜戸小・瑞浪北中の五校合同の資源回収が行われました。

土岐地区集荷場の土岐小学校の運動場では、今回も大人とともに元気に活動する中学生の姿が光っていました。彼らの笑顔やたくましさに、土岐地区の明るい未来を感じました。

土岐地区の資源集荷場、土岐小学校運動場にて

花苗が配られました

１１月１０日（木）に、冬・初春花壇用の花苗を、地区内の花壇活動団体へ配付しました。本年度は、肥料も一緒に配付しました。

花苗配付の様子と、桜堂境内での植え替え作業の様子

土岐橋が生まれ変わります

瑞浪高校や中京高校の生徒さんにはおなじみの「土岐橋」が新しい橋へと架け替わります。

市民に親しまれてきた今の橋とはお別れです。１月から取り壊しが始まり、完成は令和７・８年頃の予定です。完成までの間、歩行者は市役所寄りの仮橋、自動車は土岐大橋か明徳橋へ迂回することになります。

新しい橋が完成するまで、歩行者は向こうの仮橋を使います

こらむ探訪と再発見

地名「土岐」の由緒を探る　３

トキは、桔梗（キキョウ）に由来する

なぜこの地がトキと呼ばれたのかについては、本誌６３号の「崖（がけ）説」の他に、現在絶滅の危機に瀕している朱鷺（トキ）が、大昔はこの川に群がっており、トキの川と呼ばれるようになり、そこからトキの地名が生まれたという説もあります。

天正３年（1575）、丹波平定を開始した明智光秀は、現在の京都府亀岡市の丹波亀山城主として、城と城下町の基礎を築きました。「光秀公のまち亀岡」のホームページに土岐一族の由来について書かれています。

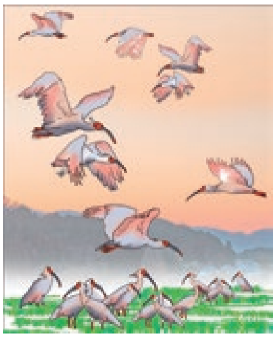
明智家の家紋である「水色桔梗」。桔梗紋は、美濃の土岐家とその一門の代表的な紋です。土岐家発祥の地である「土岐」という地名は、桔梗の古語である「オカトトキ」（岡に咲く草）の意味で、このトトキが咲くことが由来となり、そのため土岐家は桔梗を家紋にしたと言われています。中世における家紋は、ほとんどが白と黒で表されている中で、水色で彩られていることが桔梗紋の特徴であり、大変めずらしいことで知られています。

また、桔梗の花言葉は「誠実な愛」。妻や家族、家臣や領民を愛した光秀公の優しさを表すかのようです。

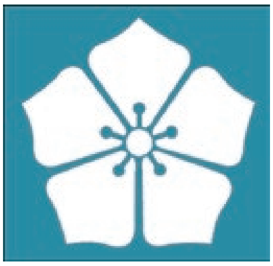
京都府亀岡市公式ホームページ「光秀公のまち亀岡」より

「土岐」という漢字が使われるようになった訳ははっきりしませんが、少なくとも、トキの呼び名は、桔梗（オカトトキ）から生まれたというのは信頼するに値する説と思えます。

トキの名の由来に、高い崖の川の意味や朱鷺の繁殖する川という説もあることなど、私たちの地区のシンボルであり、この地区の名の由来ともなった「土岐川」に、私たちは、深い感謝と敬愛の念を感じずにはいられません。



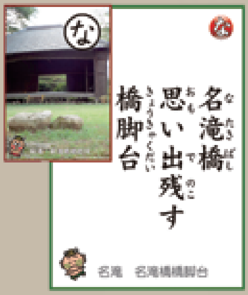
朱鷺（トキの）群棲地

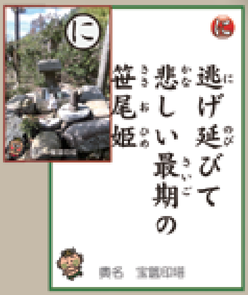


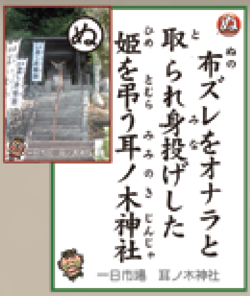
土岐氏の水色桔梗紋

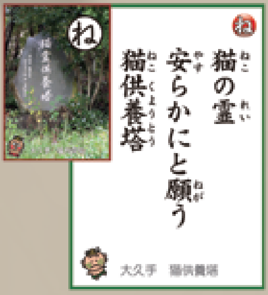
桔梗（オカトトキ）の花

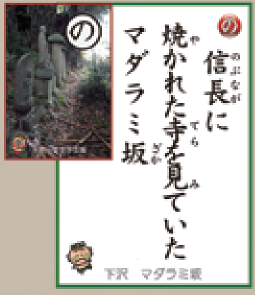
ふるさとカルタ紹介











１１月２０日に予定していた「学ぼうさい」は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止しました。

発行元　土岐地区まちづくり推進協議会　　連絡先　瑞浪市役所　☎68－2111（内線３６５）　加藤
編　集　情報発信部会　　発行日　令和５年１月

＊本誌は瑞浪市夢づくり地域交付金を活用して発行しています。